

大垣真宗学院 同窓会

新学舎特集

同窓会報

第7号

発行日 2015年2月18日
事務局 岐阜県大垣市伝馬町11
大垣教務所内
電話 0584-78-3363
FAX 0584-78-3353
郵便局振替口座番号 0830-7-206305



教区同朋会館前に建設された待望の「大垣真宗学院新学舎」

学院同窓会の第三期目を迎えて



同窓会長 高垣 康平

さる二〇一四年六月七日に開催された第七回総会において、役員選任第八條に則し、三期目会長の重責を賜りました。また、役員は新規・再任併せて一六名を推薦したところ、快くご承認も頂きました。薄弱な経験ですが、役員一同精進いたしますので、前期同様のご支援とご協力を賜りますようお願い申し上げます。

さて、この総会では役員息つく間もなく重要な議案が上程されました。それは「大垣真宗学院 新学舎建設募金事業」についてです。おかげさまで深いご理解を頂き、満場一致で可決されました。詳細は四頁からの報告にまとめましたが、結果、当初の目標募金額を大きく上回って、一千万円を超えるご浄財を寄せていただきました。そして、学習環境整備に資するという念願通り、新学舎完成に合わせて、同窓会として机、椅子等一式を寄贈させていただくことができました。

これもひとえに学院に対する同窓生並びに関係各位のご厚情とご理解の賜物と、どれほど言葉を尽くしても足りませんが、この場をお借りして深甚の感謝を申し上げます。

合掌

新学舎完成報告と募金事業への謝辞



大垣真宗学院長
海老原 章

このたび、大垣真宗学院の学舎が竣工いたしました。今から約十五年前に教務所主事として在籍いたし、その折学院幹事として事務に携わらせていただいております。その当初よりも以前から学院独自の施設を備えたいという思いがあったことは承知いたしておりました。

その後、大垣教務所長としてご当地に再度赴任し、その在職中に学院の学舎竣工に関わらせていただくことになるとは夢にも思っておりませんでした。真宗学院は申すまでもなく、真宗大谷派の教師資格を取得する学事機関であります。佛法を伝え、人が誕生していく大切な場でもあります。

今後、宗門を取り巻く環境は非常に厳しくなっております。国立社会保険人口問題研究所によれば、今ある人口が二〇四八年には一億人を割って、九九一三万人に減少するという試算が示されております。この人口減少社会の到来自体は不可

避であります。このような時代であるが故に、様々な意味で次世代を担う人づくりをしていかなければならないと考えます。

そういう意味において、この学舎が一つの拠点となり、人が生まれ育まれていく場になることを念願しております。

最後になりましたが、学院卒院生、同窓生の皆様から寄付金並びに備品等の寄贈に心より御礼申し上げます。そして、同窓会高垣会長はじめ役員の方々には、学院運営にあたりご配慮を頂いておりますこと、さらに学院の学習環境の整備を目的とした「建設募金事業」に多大なるご尽力を賜りましたこと衷心より御礼申し上げる次第であります。



学院指導主任
鷹橋 賢由

大垣の地に待望の「大垣真宗学院」新学舎が完成しました。

何よりもまず、結成後六年余の大垣真宗学院同窓会のみならず、予想を超える募金や、多くの励ましの声を寄せていただくなどのご尽力・ご支援・ご協力に、深甚の謝意を表します。

一方で、別院の境内を学院のためには提供できないとか、土曜日にしか使用しない建物は不要である等を理由に、後ろ向きな発言が続き、中々結論が出ず、設計監理業者決定後、着工までに二年という月日を費やしたことは非常に残念でしたが、教団の現状であることを教えられました。

このような現状であるからこそ、我々は、初心に帰り、信心の行人を生み出す僧伽の形成をめざして、同朋と共に心新たに取り組みを始めなければなりません。

既に『真宗』二〇一四年二月号に掲載され、『大垣教報』新年号に同封された「募集要項」のチラシ通り、新しいコースを開設します。

より多くの方に学びの場を持っていたただけるよう、昼間でも、夜間でも、一日一コマの授業を週二回、受講いただけるコースです。

更には、仏教を学ぶための任意の研修会・学習会にも利用しやすい、開法のために開かれた施設をめざしたいものです。

ご縁を結んでいただけた方を、ぜひお誘いください。

同窓生の一人ひとりが、「我がふるさと」と感じられるような「呼応道場」をめざします。更なる応援をお願いします。

新学舎建設募金事業(寄附)芳名一覧

(五十音順、敬省略)

【指導の先生方・その他の方】

飯山等、一色順心、五辻文昭、福岡智賢、稲葉当意、稲葉道文、臼井元成、海老原章、老泉俊樹、大城邦義、片野道雄、禿憲正、黒田法映、桂華淳祥、児玉允、里雄康意、下谷泰史、高木鴻子、高橋教信、廣橋賢由、竹中照真、太宰行信、太宰不二夫、龍茂樹、経森智史、沼秋香、柏尾一道、服部浩善、林憲淳、林文照、廣瀬惺、福島光哉、藤井学、不破仁、星津英昭、松島勢至、脇淵徹映、采翠晃、和田真雄

【同窓生の方・在院生の方】

響庭千世子、茜部寛、浅井文雄、朝倉和雄、雨森木綿、新井正明、有賀欣哉、安藤香人、飯田季美子、池田牧、市橋隆子、市橋紀子、伊藤國博、伊東亮、稲垣敬、稲川なみ子、稲川祐成、稲葉厚子、稲葉一成、稲葉佳代、稲葉伸道、稲葉宏子、稲葉まゆみ、稲葉基明、稲葉亮道、井上多佳子、今井敬潤、岩佐善夫、岩月忠幸、臼井とよ子、臼井達、宇野那智子、浦川忠繁、上清水信男、大鹿美雪、大谷俊子、大谷泰、大橋克子、大橋正子、小笠原豊子、小笠原まや、織田正人、尾畑香織、海北誓子、寛幸子、風越信、風越妙子、加藤貴史、加藤

喜枝、加納のぶ系、加納正博、亀井亮、河合茂、川口真幸、川澄久仁夫、北村龍洋、清井義允、清井道子、九谷徹、國島恵順、窪田和枝、熊谷弘子、栗山博美、桑原真弓、桑原美代子、児門喜美子、小島安沙、児玉俊雄、児玉朋寛、後藤昭子、小湊憲道、小山慶雄、小山法雄、斎藤優香、佐々木郁子、佐々木兼子、佐竹哲、佐竹広美、佐竹真理子、佐竹良樹、佐藤晃、佐藤義成、佐藤幸次、三條秀行、柴田英文、渋谷満智子、清水百合子、杉原光子、鈴木暎芳、鈴木恵子、鈴木孝洋、鈴木智顕、湯東玄昭、傍島仁美、傍島光昭、傍島みつこ、高垣康平、高木悟、竹中真昭、竹中寛和、竹中康子、竹村隆俊、武山秀隆、武山真理子、田中秀昭、田中秀哉、溪賢順、千葉和子、津汲陽子、鶴泉英世、勅使幸子、寺倉政子、徳屋健治、所眞砂子、富田保、中川美穂子、永木節夫、長沢諦応、長島啓有、長島聡美、長島雅之、長島万里子、奈波直子、南木直子、新田直、新田ゆかり、沼波芳子、沼口諭、野村泰成、長谷正富、林忠子、林美加、早野法教、早野裕、東山啓子、日野恵亮、日野美喜子、平塚彰子、廣瀬堪、広瀬孝文、廣瀬昇、藤環、藤井温之、藤井慈子、藤井智子、藤井玲子、藤井智了、藤森博、二木淑子、古川恒子、不破大悟、不破英紀、別所一生城、北條良行、北條大祐、星野良範、細川明博、堀恵慎、堀妙子、堀久子、堀康子、松

井将司、松岡徹秀、松永純子、丸井美智香、水谷環子、水谷貴美代、水谷敬子、水谷順子、水谷隆司、水谷正信、三山岳、三山涼子、三輪恵美子、三輪公雄、元秋実、森寛成、森尊正、森大鳳、森真理子、安井弘文、安田英信、山浦直子、山上正宣、山崎育子、山田晃潤、山吹静子、横井真教、横山法子、横山亮道、吉元英誠、吉元賢誠、吉元富栄、和田恭子、和田敬順、和田たおみ、和田祐己、渡邊明美、渡邊潤、渡邊容子

【新学舎建設募金事業の会計報告】

募金事業は当初、二〇一四年十一月末で募金を締め切る予定でしたが、期間終了後も続々とお振込みをいただいているため、当面の間、受付することといたしました。

二〇一五年二月十三日現在の総寄附口数は二〇一三口(二千六万五千円)、寄付者総数二九二名です(匿名希望の五三名はお名前の掲載を控えておりますのでご承知おきください)。

二〇一四年十一月末でいったん募金を集計し、寄贈した机、椅子等の購入代金とその残額を大垣真宗学院に将来の備品購入費として贈らせていただきました。その後いただきました募金につきましても随時、学院に寄付していきます。次回の総会でご報告させていただきます。

新学舎建設募金事業の報告

実行委員長 高垣 康平

巻頭で申し上げましたように、皆さまからのご浄財により、目標を達することができました「大垣真宗学院 新学舎建設募金事業」のあらましについて、以下ご報告いたします。

大垣真宗学院は前身も含めると六十年の歴史があり、これまでに七百余名の卒業生を輩出してきたわけですが、御承知の通り、別院の一室を間借りした学習環境は十分とはいえず、新学舎の建設は同窓会にとっても、まさしく念願でありました。

そこでこの度の建設計画をうかがって、同窓会としても一助となるべく検討を重ねた結果、「新学舎の学習環境整備に協力を」ということで、第七回総会で、有縁の皆様にご協力をお願いすることをお諮り申し上げたこととあります。

幸いにして満場一致による可決をいただき、すくさま同窓会役員で実行委員会を立ち上げました。

そして、趣意書と目標金額を五百万円（一口五千円、二口以上のご依頼）とする募金をお願い文書を作成し、さらに、海老原章学院長様をはじめ、指導の先生方等四五名から頂戴した応援メッセージを同封の上、全国の同窓生等六五四名の方々に向けて、二〇一四年八月末に発送させていただきました。



新学舎起工式 2014年 8月18日

果たしてどれほどご浄財が集まるのか、不安に思いつながりのスタートでしたが、九月末の役員会では早くも目標金額に達したとの報告があり、実行委員会一同、心から安堵するとともに大いに喜び合いました。

その後も御志納の勢いは止まりません。二口以上でお願いしましたが、多くの方々から大口の募金をいただきました。中でも、指導の先生お一人と匿名同窓生お一人からは、それぞれ二〇〇口をいただき、言葉にならないほどの感激でした。そして期間後半には、在学生五〇名へも募金協力の呼びかけをいたしました。



工事中の新学舎 2014年10月14日

当初の締め切り予定日であった二〇一四年十一月末実時点では、二六四名から九百四十九万円という、予想だにできなかった金額へと発展した次第です。

その金額から、研修室（教室）の机、椅子等を購入し、残金とともに学院に寄付いたしました。